

職員リレーエッセイ

『好きとは？』

ニコニコデイサービス鶴里 介護職員 松村 一徳

今回、職員リレーエッセイのお話があったときに、テーマは自分の好きなもので良いという事で、まずは、好きなものを順番に思い浮かべていきました。しかし、どれもいまひとつしっくりこないように思いました。

ふと、最近のことを振り返ってみると「何が好き？」と聞かれた時に、食べ物の場合は「よく食べている」「嫌いではない」「苦手ではない」など、趣味の場合ははっきりと答えられないことが多く、動物の場合は「逃げられてしまうから」と好きとか嫌いなどのコトバをも使っていない返答の仕方をしていたと気づきました。が、どうしてそのような答え方をしていたのかわからないまま時間が過ぎていきました。

ある日、「30年近く前のカーレース」のテレビ放送を見ていたときに、好きなレーシングドライバーが映った瞬間に「なぜ、好きになったのか？」また、「引退してかなり過ぎた現在も、好きなままなのか？」と約2時間ほど見ながら考えてました。そのドライバーの容姿？そのドライバーが乗っていたレースカー？そのドライバーのテクニック？など思い返してみましたが、小学生当時にこんなことは当てはまらないのではないかと……。だとすると、根本的な「好き」ということがどういうものなのか疑問がでてきました。

「好き」を調べると、①心がひきつけられること 気持ちにぴったり合うこと ②かたよった好み 物好きなさま ③色好み ④思いのままであること 気ままなこと ⑤和歌・歌・芸道などの風流の道に深く心を寄せること＝数寄 などがでてきました。でも、まだ、しっくりくるものがなく、興味本位で英単語ならどうかと少し調べてみました。すると、中学で習った単語が・・・「an enthusiast＝熱中している人」「a fan＝熱心な愛好家」「a like＝好み」「a fondness＝好意」「a love＝好きなもの」「a favourite＝1番好きな」などありました。

調べているうちに、どうしてそう答えていたかという疑問に対して少しわかったように思えました。それは、自分の中で「好き＝熱心で熱中している1番のもの」というような意味合いにいつの頃からか考えてしまっていたこと、また、知らず知らずのうちに他人と比較していたということでした。なぜ、比較をしてしまうのか？他人と接するなかで自分自身が思う「好き」に関して、自分よりも物知りであったり、興味を持たれなかったり、賛同されることが少なかったりと、「好き」なものとして話をすることが自分の中で恥ずかしいという気持ちを作ってしまったんだと思いました。

エッセイを書くにあたり「好き」を調べるところから始まり合わせて「嫌い」や「苦手」の意味を見直すことで自分自身をみつめる時間になりました。（嫌い＝きらうこと いやだと思ふこと 好ましくない傾向 懸念 差別 区別・・・など 苦手＝扱いにくい相手 なかなか勝てない相手 得意でないこと不得手 不思議な力を持つ手・・・など）

この1ページを書くことに時間がかかりましたが、考えてみると意外と嫌な時間ではなく「好き」なものだったかもしれないと思いました。これからは、今まで「好き」と思っていなかったことや見向きもしなかったことの身近な所から「好き」を探していこうと思います。みなさんも探してみてください・・・
(次回は、ニコニコハウス鶴里 清山さんに繋がります。)

低料第三種郵便物許可

平成 年 月 日発行（増刊）

A J Uニコニコハウス通信（第 号）（ ）